

あいあいあい I eye 愛

2024 年

11 月号



菖蒲田浜（七ヶ浜町）でのプラスチック拾い活動 前列中央が高田秀重先生

国際プラスチック条約策定に向け 日本も加速を

理事 佐藤 あきな

私たちの身の回りに溢れる使い捨てプラスチック。容器包装や建設資材、人工芝など、今とだけだけのプラスチックが生産されているかご存じでしょうか。なんと年間4億トンだそうです。

9月19日、海洋プラスチック問題研究の第一人者である高田秀重氏（東京農工大学農学部教授）を七ヶ浜国際村にお迎えして学習会を開催しました。

食品の容器包装の使用や、紫外線などで劣化し砕けた5mm以下の「マイクロプラスチック」を、海洋生物を介して人間が摂食することで、糖尿病や肥満、精子数の減少、免疫力の低下など、私たちの健康にも影響が出ていることを学びました。プラスチック製品の成分の7%が酸化防止剤や紫外線吸収剤、軟らかくするための可塑性などの添加剤であり、その中には環境ホルモンと呼ばれる有害な化学物質を含むものが多くあります。生分解性と言われるものはより多くの添加剤が必要で、植物由来とされたストローからも環境ホルモン物質が検出されたそうです。もはや、プラスチックを使う限り環境ホルモンの

曝露は避けられない状況だとよくわかりました。あいコープでは、他団体とも連携して有害化学物質の削減に取り組んでおり、現在、「国際プラスチック条約（※）策定に伴い、日本も態度を明確にせよ」という署名活動も行っています。これは、私たち消費者が未来のためにできるアクションの一つです。

また、「プラスチック汚染問題は、同時に温暖化の問題である」と高田先生はおっしゃいました。70%が焼却処分されるというプラスチックごみは温室効果ガスを発生させ、また、1本のペットボトルをリサイクルするのにエアコン20分使用相当の二酸化炭素が発生することなどを詳しく教えていただき、有害化学物質削減だけでなく温暖化防止のためにも、プラスチック製品の製造と使用自体を減らすことが重要であることを強く感じました。

学習会終了後には参加者みんなで海に移動しました。実際に砂浜に落ちていたレジンペレット（プラスチック製品の原料）を拾うことで、プラスチック問題の実感に繋がったのではないかと思います。

※国際プラスチック条約とは：プラスチックの生産量の制限・有害化学物質の規制などにより環境汚染危機を回避しようという条約

CONTENTS

- | | | | | | |
|-------------------|----|-------------------|------|-----------------|----|
| ▶祝ミートセンター3周年「肉祭り」 | …2 | ▶飯豊ながめやま牧場見学ツアー | …4-5 | ▶ケアメイト研修会開催 | …7 |
| ▶産地交流の稲刈り完了！ | …3 | ▶地区委員会から原木椎茸産地を見学 | …6 | ▶今日はこれ！わたしのおすすめ | …8 |

10/19(土) 産直肉をBBQで味わう大試食会
「肉まつり」 今年も賑わいました♪

食と農委員会「これからの養豚プロジェクト」では、昨年に続き2回目となる「肉まつり」を日の出町センターで開催しました。

ミートセンター3周年を祝い、あいこープの産直肉をますます盛り上げよう！という今回の肉まつり。産直豚肉・牛肉の生産者、あいこープ職員、理事、組合員地区委員総勢21名が力を合わせ、3倍の抽選をくぐって当選した組合員約80名を出迎えました。

季節外れの暑さの中、生産者自らが焼き台に立って肉を焼いていきます。ほかほかの新米と焼きたてのお肉を皿に盛り、趙さんのたれで「いただきます！」「美味しい！の笑顔が弾けます。



朝早くから炭火を起こし、野菜を切って準備は万端。
「どんどん食べてくださいね～」



開発中のPB
生ソーセージ(上)
「お肉、うまいか～！」
なかのやくんオンス
ージ(右)



今回のお楽しみは、これから開発を進めるPB商品「ミートセンターで作る生ソーセージ」の試食。一般の組合員の試食はこの日が初です！炭火で焼いた特別感とともに味わっていただきましたが、どうだったでしょうか？

生産者インタビューを聞きながらお腹も膨れてきたところで、特別ゲスト「なかのやくん」こと仲野谷仁さん(社会福祉法人みんなの輪理事長)がギターを持って登場。この日のために用意したお肉の歌で会場を盛り上げてくれました。心配された天気も何とかもち、全日程が終了。スタッフみんなで美味しいまかないをいただきながら「今回は直火の窯で新米を炊いたら」「野菜も好評だったのもっと増やそう」など、さっそく来年に向けた話も。

みんなで作る肉まつり、とんぷ口の恒例行事になりそうな予感です。

理事 石井 朱里

9/24
24年度第1回 総代懇談会を開催しました

理事会では、今年度の総代の皆さまを対象とした「総代懇談会」を今年も開催しました。

組合員の代表である総代(24年度・125名)の意見をあいこープみやぎの事業と活動へより良く反映させるための懇談会も、今年で3年目。今回は元理事長・吉武洋子さんのお話をメインに、今のあいこープの諸課題について考える時間を総勢36名の組合員と理事が共有しました。

吉武さんのお話は、「世界各地で紛争の絶えない現実に対し、私たち市民ができることは足元で活動



あいこープの創成メンバーのひとり、
吉武洋子・元理事長(右)

していくこと」という生協運動の精神から始まりました。生協運動を進める上で自身が経験してきた困難や、「令和のコメ騒動」と言われる今回の米不足の問題といったエピソードを通じて、「生協とは、組合員活動とは」の原点を改めて語ってくださいました。

その後の討議では、会場からあいこープの運営に対する様々な心配や厳しいご意見も多く出されました。平和で持続可能な世界を望むみなさまの、あいこープへの期待の表れと受け止めています。

気候変動や少子高齢化といった世の中の移り変わりに対応しつつも、あいこープが「協同の力で人・食・環境を大切にする」という理念を継承し、あいこープらしくあり続けるために、悩みながら進みましょう。引き続きみなさまの参画をどうぞよろしく願います。

理事 石井 朱里

産地交流田の稲刈りが終了

*9/28 大郷ふゆ水田んぼ

各地に被害をもたらした9月の大雨は大郷交流田にも水を溜め、多くの稲を倒したようでした。秋晴れの涼やかな気温の中、参加家族2組と生産者さん、東北太大学生、理事、コアサイクル活動で参加の職員で稲刈りを行いました！

水をたつぷり含んだ田んぼはぬかるみ、なかなか一步を踏み出せないくらいの中、さらに稲を起こしながら刈る作業はなかなか難しく、「今日は大人が多くてよかった...」。まっすぐ稲が立っていてパリッパリッと刈った去年とは大違いです。

刈る人、運ぶ人、縛る人と分担し



大人も子どもも泥んこで刈り終わりました。
記念写真は大郷の「オー！」

て進め、だんだんとチームワークが良くなつて稲刈りが進んで行きました。はだしてバリバリと仕事を進める男性職員さん、子どもたちもどろんどろんになりながらお手伝いしてくれました。結局最後は母たちも大人たちもどろんどろん

稲刈りの田んぼにも蜘蛛がたくさん、カエルがたくさん、ヘビも二ヨロ二ヨロ。こんなにたくさん生き物を見つけたことができたのはふゆ水田んぼのおかげでしょうか？ふゆ水田んぼへの学習を深めつつ、大学生の皆さんの調査結果も楽しみです。

収量は今年も例年並みになるだろうと生産者の西塚さん。しかし泥の上では落穂を拾うのも難しく、また倒伏してしまつた稲穂からは芽と根が出てしまい収穫できず、もったいない気分になりました。その分、今年の新米になつて食べられるありがたさを噛み締めるでしょう。

ふゆ水田んぼを継続していくことでどんな自然環境の変化・お米の変化が見られるのかを組合員の皆様には見守っていただき、またぜひ活動に参加していただきたいです。

理事 佐藤 有子

*10/12 七郷トライ田んぼ

5月に植えた苗もすくすくと育ち実りの季節を迎えました。いよいよ待ちに待った稲刈りです。

まずは好きなように田んぼに入ってみました。黄金色の稲に包まれてうつとりとした気持ちになりました。子ども達は虫を見つけては歓声をあげ捕まえるのに夢中に。トンボ、いなご、カマキリ、かえる...たくさん生き物が元気に暮らしているのは無農薬の賜物ですね。

その後は鎌で一株一株手刈りです。鎌の使い方、稲のつかみ方のレクチャーを受け、早速作業開始。案外子どもの方が上手で、初めてとは思えないほどサクサクと刈ってくれました。最後はコンバインで仕上げ。そのスピードにみなさん釘付けでした。



子ども達も大活躍！
力を合わせて手刈りしました



豊作の予感です(上)
新米おいしいね！(左)



作業の後は、七郷クローバーズファームさんから差し入れて頂いた「つや姫」と「こしひかり」の新米を試食しました。そのままを味わってほしいので塩もつけないおにぎりにして食べ比べてもらいました。気持ちの良い秋晴れの空の下、一汗かいた後、そして新米！おいしくないわけがありません。「おかわりー！」「結構味が違うね」「甘味を感じるね」など、みなさん笑顔で味わっていました。小さいのに4つもかわりした子も！

苗を植えて、草取りのお世話をし、収穫する。大人にも子どもにも心に刻まれる得難い体験になったのではないのでしょうか。

理事 櫻井 洋子



あいコープの基幹商品の一つ「放牧パスちゃん牛乳」のふるさとを知っていますか？そこはいったいどんな場所で、私たちはどんな牛のお乳をいただいているのでしょうか。よく晴れた日曜日、組合員と職員あわせて 60 名が、仙台からバスで3時間かけて山形県の「飯豊ながめやま牧場」を訪れました。



クイズを出題するあいコープ職員

「い〜いでの ふ〜もとの な〜がめやま〜♪ほ〜うばく パ〜スちゃん く〜らして〜♪」…あいコープに伝わる『放牧パスちゃん牛乳のうた』を参加者みんなで歌いながら牧場を目指します。バスの中ではあいコープ職員による牧場クイズで牛さんのことを楽しく勉強。嫌が応にも期待で胸が膨らみます。バスが牧場の敷地に入ると車窓には、緑の牧草地に悠々と放たれた牛たちの姿が!!車内で歓声が上がりました。貴重な「放牧酪農認証」を得た牧場へいよいよ足を踏み入れます。



放牧地に入って、牛と一緒に草の感触を楽しむ

参加者が柵の中に入っても牛たちはのんびり草を食み、お客さんに動じません。好きなところに座ったり、歩いたり走ったり。秋晴れの空が気持ちよくて楽しいのか、たくさんの牛が牧草地に散らばっていました。牛たちは自分の気分で外に行くことも牛舎に入ることできます。世の中には一生牛舎に繋がれたままの牛もいますが、ながめやまの牛は本当に幸せそうです。



近くまで寄っても、そっと触っても、牛は穏やか



参加者は牧場内の様々な施設を見学しました。子牛舎では、赤ちゃん牛に子牛の成長に必要な栄養が入ったミルクを与える体験をさせてもらいました。子牛用の哺乳瓶は大きくて、差し出すと子牛が力強く吸い始めます。哺乳瓶を持っていかれないようにしっかりと支えて、一心不乱にミルクを飲む子牛をキラキラした目で見つめる子どもたち。貴重な体験ができました。

ここで 3 か月まで育った牛はやがて成牛舎へ入っていきます。



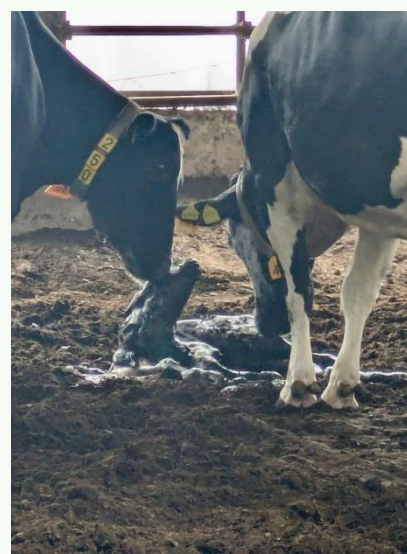
子どもたちに大きな哺乳瓶でミルクを飲ませてもらう子牛



飼料を差し出すと手から食べてくれた！



飼料用の大きなコーンや干した牧草などがごはん



生まれたての子牛

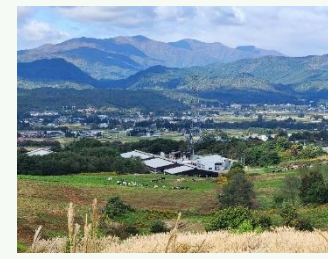
見学の最中、産気づいた母牛が!参加者の見守る中、新しい命の誕生です。生まれた子牛を優しく舐める母牛と、頑張って頭を上げようとする子牛の姿に生命を感じるワンシーンでした。こうやって生まれた子牛に与えるお乳を、私たちに分けてくれているのですね。幸せな牛のお乳、貴重な放牧酪農のお乳を、これからずっといただきます。この牧場を守り続けましょう。恒例の行事でありながらも近年まれにみる好天に恵まれました。参加者のお子さんは牛の赤ちゃんが見られたこと、牧草地に入ったことなどを嬉しそうに語ってくれました。参加した組合員がそれぞれに新たな思いを持ったながめやまツアー、また来年もみんなで行きましょう!



嬉しい! ヨーグルトの試食



楽しかった思い出を発表



高台から牧場を望む

9/26 第45回 宮城県生協組合員集会 オンライン含め 443 名が参加

宮城県生協組合員集会が東京エレクトロンホールみやぎで開催され、会員生協の紹介であいコープからは、たねまきプロジェクトの活動と 7/7 の女川原発再稼働を考える講演会、パレード参加の報告を行いました。また、国際ジャーナリストの堤未果さんの講演で、食の世界的現状と遺伝子組み換え・添加物・ゲノム編集食品についてお聞きし、デジタル社会の中でCMや安さに惑わされることなく、安心・安全で質の良いものを選択する権利を守り、子どもの食を守るために保護者や地域が声を上げることが大切だと話され、生協の活動にエールを頂きました。集会後には参加者が長い列を作り、仙都会館までアピール行進を行いました。

理事 中島 恵子



シュプレヒコールをしながら
仙台市中心部を歩いた

9/28 シャボン玉フォーラム in ひょうご

グリーンコープ生活協同組合ひょうごが受け入れ団体となり、シャボン玉フォーラムが盛大に開催されました。「知っとお?！せっけんで守れるもん あるんやで!」～安全で豊かな環境を未来の子どもたちへ～をテーマとし、神戸ポートオアシスには、全国からせっけん運動に取り組む仲間が集まりました。

基調講演は京都大学の奥地拓生教授より、「水惑星の花崗岩のものがたり」と題して、地球上の水(海)と大陸を動かすプレートの関係、水と生命のつながりを学びました。六甲山の花崗岩からの湧き水により、天然水を美味しく頂けます。37年続くシャボン玉フォーラムの歴史の1ページとして、私たちのせっけん運動がいかに大切に実感したフォーラムになりました。

理事長 高橋千佳



せっけん利用伸長率表彰式



【泉B地区委員会】

希少な原木の乾椎茸づくりを見学しました

10月中旬、PB商品「宮城の乾しいたけ」を学びに登米市東和町の芳賀さんの圃場を訪ねました。

ハウスでの椎茸栽培はローテーション。「秋のお部屋」から、かごに並べた原木を冷たい地下水にかごと浸し「冬」と勘違いさせる状態を経て、ほだ木を立てかけた温かい「春のお部屋」では椎茸が少しだけ顔を出していました。「本来この時期はもっと椎茸が出ているはずだったけど、夏が暑すぎて生育が遅れてしまつて…」と芳賀さん。夏の猛暑は椎茸にも、もれなく影響を及ぼしているんですね。



「春のお部屋」を案内してくれる芳賀さん（左）。
小さな椎茸がポコポコと顔を出していました



椎茸専用乾燥機「でらかん」の中で
乾燥中の椎茸たち。
美味しそう！

椎茸を乾燥する機械も見学しました。扉を開けるとたくさんの棚にたくさんの椎茸！一昼夜かけて温度や時間を見ながら乾燥すると、大きさが半分くらいに縮むそうです。乾燥した椎茸は酸化を防ぐため湿度と温度を管理した部屋で保管します。

今回印象に残ったのは、使い終わったほだ木の再利用の話。数年使用して椎茸が出てこなくなったほだ木は、燃料はもちろん菌床のおがくずとして混ぜ込まれたり、土壌改良剤や家畜の床材になったりと、まだまだ使い道が。ここでも資源の循環が行われているそうです。素晴らしいですね！

理事 辻朗子



みんなの
資源循環プロジェクト
第8回

第8回



はさま自然村の堆肥の様子

はさま自然村 菅原 達徳

宮城県北部、登米市で米や野菜を生産している私たち「はさま自然村」でも、プロジェクトで作った種堆肥に米ぬかと籾殻を入れて、本格的な堆肥作りをやっとスタートさせました！割合は種堆肥5：籾殻3：米ぬか2という感じです。地域の資源を入れたいと計画していた「廃棄される茎わかめ」(この連載の第5回で紹介)は、わかめの収穫が始まるまで入れられないですが、まずは身近な資材投入から始めています。

投入から数日で発酵が進み、60℃を超えました。みんなで作った堆肥だけあるなど、菌のパワーを改めて感じています。

迫の堆肥は、肥料の代わりになるよう仕上げ、おいしさの隠し味にすることが目的です。この堆肥ができたら、露地野菜の一部に投入して使ってみたいです。現実的には春のプロットコーリーあたりに使えたらと考えてます！

理事会議事録抄

2024年10月1日(火)

▼「役員退任慰労金規定」改定を承認した▼理事長職務代行の順位決定日を承認した▼松岡町子ども食堂へのジョイケア基金による支援を承認した▼産地応援し隊懇親会企画企画案を承認した▼卒FITT学習会企画案を承認した▼ハラスメント講習の開催を承認した▼第一回総代懇談会の振り返りを行った▼Wa!わあ祭り2024実行委員会報告を承認した。

組織概要

(2024年9月分)

【組合員数】	16,911名
【供給高】	165,152千円
【一人実利用高】	5,268/週
【出資金】	1,350,630千円



●200年も続く老舗であり、時代や環境の変化に合わせて業態を変えながら自然や微生物と調和し国産を絶やさめよう先祖代々努めてこられたことに畏敬の念を抱きました。(鎌田醤油見学会参加者感想より)

誰もが安心して暮らせる社会を

「万が一」に対応できるケアメイトを目指して

去る9月11日に、本年度初めてのケアメイト研修会を開催しました。集団託児をより安全なものにするために、元保育園園長の高橋悦子氏を講師にお招きし、集団託児の安全確保についてお話を伺いました。

保育前の会場の安全確認のポイントや、保育中の注意点、事故時の対応など、ヒヤリハットの体験談も交えながらお話いただき大変勉強になりました。

お話の後はグループに分かれての情報交換で、各自の体験を伝えあったり疑問に思っていることを聞き合ったりと、楽しく交流しました。事務局からは3月にあったシール誤飲事例を受けて改善した点をケアメイトへお伝えし協力をお願いしました。

ジョイケア担当理事 櫻井 洋子



講師の高橋悦子さん



託児会場のチェック項目を確認

■託児についての改善点■

■シール、養生テープの使用は止めて名札を導入

■救命救急講習の年一回の開催

■ケアメイト登録時の「救命救急講習動画視聴」のお願い

■同意書の導入

■事故、ヒヤリハット報告書類の整備、全ケアメイトへの迅速な情報共有

■託児開始前のケアチェック表作成

■緊急時の対応フローの確認、見直し

■託児マニュアルの事前配布
子ども1人、ケアメイト1人時の緊急連絡手段としてトランシーバーの導入

私のオススメ商品



私が組合員の皆さんに是非召し上がってほしい商品は「花兄園プリン」です。口に入れた瞬間とろりととろける上品な甘さが魅力の商品です。

パスちゃん牛乳と花兄園卵を使用したプレミアムな味わいは自分が頑張ったご褒美や家族、大切な人とおしさを共有しながら食べてほしいお勧めの商品です。

商品課 高橋 実花

編集後記

10月は稲刈りやバスツアー、肉まつりなど、週末にも大きなイベントが続きました。近年は台風の影響が長くなっているのか、産地とともに天気に一喜一憂する日々でした。残念ながら中止の判断をした企画もあれば、天気に恵まれ、逆に熱中症に警戒するような日もあり・・・そんな秋のイベントも、11/2のWa!わあ祭りで一区切りです。今号が皆さまのお手元に届く頃には、「大成功だったね!」と締めくくれていますように。

理事 石井 朱里

委員さん募集中!

あいコープの仲間と
食のこと
環境のこと
一緒に話しませんか?

お問い合わせ先
☎ 0120-255-044
Fax 0120-849-324
Email i-kumikatsu@mamma.coop
(担当: 組合員事務局 鈴木・太田代)



ジョイケア NEWS

ジョイケアシステムは、あいコープみやぎ独自の地域福祉政策で、組合員全員の拠出金(100円/月)によって成り立っている助け合いの仕組みです。社会福祉法人「みんなの輪」、NPO法人「お茶っこケア」、ビッグイシューへの支援など、地域福祉にも役立てられています。

個人で利用できるサービス(ささえあい/たすけあい/集団託児/慶弔・出産/電話相談)もあり、組合員同士の助け合いやケアメイトによる集団託児なども多く利用されています。

ジョイケア利用状況 (2024年9月分)

ささえあい(保険)	1件	◆集団託児	
たすけあい(ケア)	26件	利用延べ人数	8名
集団託児	6件	◆ケア時間	
慶弔・出産	13件		62時間
電話相談窓口	9件		
計	55件		

組合員が利用できる電話相談

お申込み・お問合せは
ジョイケア事務局へ



0120-50-7277 平日 9:00~17:00

年金相談..12/10(火) 社会保険労務士 清野道子氏

13:30~15:30

法律相談..12/10(火)、12/18(水) 弁護士 倉林千枝子氏

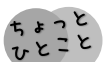
13:30~15:30

子ども相談..次回は1月

*介護相談は相談日のご希望を伺います。

介護相談 (ケアプランセンター木もれび 山崎彰子氏)

▼随時予約可能です▼各相談窓口前週の金曜日までに予約して下さい▼金曜日が祝日の場合は直前の平日の受付時間まで受付します▼予約して頂いた方には、相談日に相談員からお電話を差し上げます。



●生産者の方々の話も聞いてとても勉強になりました。私はいつも豚や鶏を中心に注文していて高価な牛は遠慮していましたが、お話を聞き改めて買い支える大切さに気がきました。(肉祭り参加者アンケートより)



今日は
コレ!

わたしのおすすめ

〈第5回〉

今月の食材

大郷の米粉

(大郷町 わは・わ味明)



私のおすすめは『大郷の米粉』です!

大郷グリーンファーマーズを中心に地元大郷町で栽培された、特別栽培基準以上の米を使用し、社会福祉法人みんなの輪が「わは・わ味明」にて製粉・製造を行っています。

PB商品の米粉パンにも使われていて、家庭ではお菓子作りやお料理に、小麦粉と同じように使うことができます。

今回は特に、米粉の良さを体感できる「天ぷら」をご紹介します。

小麦粉よりも扱いやすく 失敗知らず! 『季節の天ぷら』



①衣の目安は米粉5に対し水6。粘りが出ないのでよく混ぜてOKです。
水の代わりに無糖の炭酸水を使うとサクサク感が増します。



②野菜類は170℃程度の低温でじっくり揚げましょう。少なめの油でも表裏を返しながらかき揚げれば大丈夫。



③秋の根菜類は薄く切って精進揚げや、細切りにしてかき揚げも。

柿やリンゴなどフルーツの天ぷらも面白いですよ♪

おすすめポイントは、何と言っても「まぜすぎで良い」ということ。小麦粉のようにグルテンができないので、よく混ぜても粘りが出ません。ふるわずによく混ぜて衣を作り、食材にきつとくぐらせて低温の油で揚げていきます。揚げ油が汚れにくいので、油を大切に使うことができます。揚げ末も楽ちんです。米粉を使った天ぷらはパリパリした食感で、野菜が苦手なお子さんも喜んで食べてくれるかもしれません♪

ぜひご家庭で気軽に挑戦してみてください!

食育コンダクター※ 若生 恵理

※食育コンダクターとは…NPO法人とうほく食育実践協会が育成・認定する「食の伝道師」。約1年間、養成講座を受講して食の根幹を学んだメンバーが、食育の現場で活躍している。

今後の予定

お知らせ

毎年恒例の《秋のフォーラム》は各地区で開催時期が異なります

例年、各地区で秋に一斉開催していた《秋のフォーラム》ですが、今年は来年3月までの期間に、それぞれの地区で企画しお知らせしていきます。(青葉 AB 地区は10月に開催済み)

今後の開催については地区のチラシのほか、あいあいあいでもお伝えします。

女川原発が止まってから

●4975● 日目

(2024年11月4日現在)

11/28

木

脱原発エネシフ委員会主催

みんなで話そう! どうする太陽光?

場所/あいコープミートセンター2F キッチンスタジオ

時間/ 10:00~12:00

定員/25名 託児定員/5名

参加費/無料 鍋布団で炊いた新米の試食あり♪

申し込み締め切り/11月15日(金)

12/5

木

ジョイケア企画

冬の体の整え方 食べ物と漢方のお話

場所/日立システムズホール 3Fエッグホール

時間/10:00~12:00 参加費/無料

定員/80名 託児定員/5名

申し込み締め切り/11月22日(金)